

国立・国定公園総点検事業について

1. 国立・国定公園総点検事業の趣旨

- ・ 近年、自然環境に関する科学的知見の集積（生物多様性や地形地質に関する研究の推進、自然環境保全基礎調査をはじめとするデータの蓄積等）が進むとともに、生物多様性等への国民の関心・要請の高まり、エコツーリズムによる公園利用の増加、より深い自然体験を求める利用形態の増加等の公園利用の形態の変化等、国立・国定公園を取りまく自然環境、社会状況は大きく変化している。
- ・ すなわち、国立・国定公園にふさわしい自然の風景地について、改めて評価することが求められている。
- ・ このため、生物多様性国家戦略（第3次、2010）では、「自然環境や社会状況の変化や風景評価の多様化に対応して、国立・国定公園の資質に関する総点検を行い、国立・国定公園の全国的な指定の見直し、再配置を進める中で、生態系ネットワークについても考慮した指定の拡大を図ります。」としている。
- ・ 一方、世界的な動きとして、第7回生物多様性条約締約国会議（2004年）で決議された保護地域作業計画（PoWPA）では、代表的な生態系を網羅した保護地域ネットワークの確立を目標としており、このために「2009年までに、国あるいは地域レベルのギャップ分析により抽出された保護地域を選定」という目標が掲げられている。
- ・ こうした動きを踏まえて、環境省では平成19年度より国立・国定公園総点検事業（以下「総点検事業」。）を開始した。これまでに、自然環境（生態系及び地形地質）の観点から重要な地域を抽出し、既に指定されている国立・国定公園区域との重複状況の分析（ギャップ分析）を実施するとともに、今後10年間を目途に国立・国定公園の新規の指定や大幅な拡張の対象となり得る候補地を選定した。
- ・ 重要地域に関する情報は、国立・国定公園の候補地の選定にとどまらず、環境アセスメント、他の制度による保護地域の指定等の、様々な取り組みに活用されることが期待される。
- ・ 全国的に国立・国定公園の候補地を検討し、公表するのは昭和46年以来39年ぶりであり、科学的データに基づく総合的なギャップ分析は初めてのことである。

2. ギャップ分析の実施

(1) 自然環境（生態系及び地形地質）保全の観点からの重要地域の抽出

- ・ 国立・国定公園の総点検を行う立場から、我が国を代表するような自然環境（生態系及び地形地質）を対象として、重要地域の抽出を行った。全国レベルでとりまとめられた既存の公表資料を中心として、一部不足しているデータについては専門家へのヒアリングにより補足し、分析を行った。
- ・ 生態系の観点では、陸域、陸水域及び沿岸域に係る各生態系タイプについてデータを収集し、重要地域を抽出した。具体的には、植生、河川、湖沼、干潟、サンゴ礁等の生態系に関するデータ及び絶滅のおそれのある動植物種の集中分布域、広域な生息環境を必要とする動物種の分布域等の動植物種に関するデータを収集した。生態系に関する重要地域は、便宜的に隣接・近接する地域ごとに統合した結果、247地域が抽出された。
- ・ 地形地質の観点では、山地、湖沼、海岸等に関する地形分類ごとにデータを収集し、日本列島の形成史を踏まえ、重要地域を抽出した。地形地質に関する重要地域は、便宜的に隣接・近接する地域ごとに統合した結果、88地域が抽出された。
- ・ これらの重要地域と、国立・国定公園の指定状況を地図上で重ね合わせることにより、ギャップ分析を行った。
- ・ 具体的に対象とした自然環境保全上の重要地域の項目、データは別紙1に、抽出された生態系に係る重要地域の分布と国立・国定公園の指定状況の関係図は別紙2に、地形地質に係る重要地域の分布と国立・国定公園の指定状況の関係図は別紙3に示すとおりである。

(2) ギャップ分析結果の評価

- ・ ギャップ分析の結果、すでに多くの重要地域が国立・国定公園として指定されていることを改めて確認した。特に、高山性の植生及び火山荒原については、多くの重要地域が国立・国定公園に指定されており、比較的保護地域の指定状況が充実していることが確認された。また、今回評価対象とした絶滅のおそれのある海鳥の繁殖地は、国立・国定公園に加えて原生自然環境保全地域及び国指定鳥獣保護区の指定状況を考慮した場合、ほとんどの地域を保護していることが確認された。
- ・ 一方で、琉球諸島の亜熱帯林、北海道西部の夏緑樹林、沿岸の干潟及び塩性湿地については、国立・国定公園に指定されている割合が比較的低

く、都道府県立自然公園、自然環境保全地域や国指定鳥獣保護区等の他の保護地域制度の指定状況を考慮しても、保護地域の指定状況が十分でないことが判明した。

3. 国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定の考え方及び手順（別紙4）

（1）国立・国定公園との重複状況の分析及び自然の風景地として傑出性が高い地域の抽出

- ・ 自然環境（生態系及び地形地質）に関する重要地域について、国立・国定公園と重複していない地域又は一部重複している地域のうち、以下の観点から、国立・国定公園の指定対象となり得る、自然の風景地として傑出性が高いと考えられる地域を抽出した。

①生態系に関する自然の風景地として傑出性が高い地域の考え方

ア）固有種が集中して分布している地域

固有種の中でも特に、分布域が狭く、絶滅のおそれが高いために重要であると考えられる種の集中程度が高い地域。

イ）日本列島の地形地質の形成史を反映した特徴的な生態系が成立している地域

海峡による分離・結合の歴史や特殊な地質を有することにより種が独特の進化を遂げている又は種の構成が特殊である地域、高山や湿地といった特殊な環境により遺存的に分布する種が集中する地域。

ウ）多様な生態系が複合的に一体となって豊かな風景を形成している地域

自然性の高い多様な生態系が近接・連続する地域、国を代表する重要な野生生物が分布する良好な里地里山地域、まとまりのある原生的な自然環境に隣接する良好な里地里山地域。

②地形地質に関する自然の風景地として傑出性が高い地域の考え方

エ）日本列島の地帯構造区分を考慮したうえで、我が国を代表する傑出した規模を有し、優れた風景を形成している地域

日本列島の形成過程を踏まえた地帯構造区分を考慮したうえで、我が国を代表する傑出した規模の地形地質を有する地域であって、良好な自然環境が保たれており、自然の風景地として資質が高い地域。

(2) 社会環境等の観点からの検討及び候補地の選定

- ・ 上記の自然の風景地として傑出性が高いと考えられる地域のうち、国立・国定公園としては、①地域の意向・熱意、②利用のあり方、③管理の体制についても検討することが必要である。これらの観点からの検討を行い、国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地（以下「候補地」。）として 18 地域を選定した。
- ・ 選定された候補地名、評価等は別紙 5 に、生態系・地形地質の観点から重要な地域の分布と新規指定・大規模拡張候補地の関係図は別紙 6 に示すとおりである。なお、候補地名は仮称である。

4. 今後の取り組みについて

(1) 候補地の取り扱い

- ・ 候補地は、科学的視点に立ち国立公園又は国定公園としての資質を有すると環境省が考える地域であり、今後 10 年間を目途に候補地における自然環境や利用状況の調査、保護や公園利用に関する計画の検討、関係者との調整等を行い、具体的な区域の指定を検討する。特に、計画の検討に当たっては、指定後の管理運営を円滑に進めるためにも、地域の関係者の参画・意見聴取を推進する。国定公園の候補地については、関係都道府県を中心に検討を進めることとなる。
- ・ 具体的な公園指定等の際には、改めて適切な公園名を選定する。また、候補地として選定した地域内で、1つの国立公園又は国定公園を指定又は拡張するとは限らず、地域によっては候補地内で複数の国立・国定公園を指定する場合も想定される。
- ・ 別紙 6 の候補地の範囲については、この範囲の全てが公園区域として想定されているものではなく、地域ごとに今後詳細な自然環境等に関する調査、地域の意向確認等を行ったうえで公園区域としての資質を評価し、具体的な公園区域を選定することとなる。
- ・ 具体的な調整の過程において、管理体制等を考慮した自然公園の分離・統合等についても検討を進める。

(2) 候補地以外の重要地域の取り扱い

- ・ 重要地域の中には規模が小さい地域や公園利用が想定されない地域も含まれ、全てが国立・国定公園の指定対象となるものではない。しかしながら、候補地に含まれない地域についても自然環境保全上の重要な地域であるので、既存の保護地域制度での保護状況も考慮して、以下の方

向性を検討する。

①保護地域制度での対応の検討

現在の公園区域との連続性（地理的な連続性、風景の一体性、地域の意向・熱意等）も考慮して国立・国定公園への編入又は自然環境保全地域や鳥獣保護区等の他の保護地域制度での指定を検討する。

②情報の提供による保全の推進

今回抽出した重要地域のデータについては、生物多様性国家戦略をはじめ、国土レベルの生物多様性や自然環境に関する計画策定に活用していく。

また、重要地域に係る情報は、積極的に地方公共団体や関係機関に周知し、環境アセスメント、地域環境計画や生物多様性地域戦略の策定等に際しての活用を促す。

③その他

既に国立・国定公園に指定されている重要地域についても、現在の保護状況が適切であるかを検討し、必要に応じて保護措置の見直し及び検討を行う。具体的には、適切な地種区分の設定、捕獲等を規制する動植物種の見直し及び自然環境の管理や利用のあり方の検討を通じて、自然環境の保全と適切な公園利用体制の整備を推進する。

また、自然環境や社会環境の変化、新たな知見の集積等の理由により、候補地以外であっても、国立・国定公園の新規指定候補地となる地域が含まれるものと考えられる。

対象となる自然環境(生態系及び地形地質)保全上の重要地域

(1)生態系の観点で重要な地域

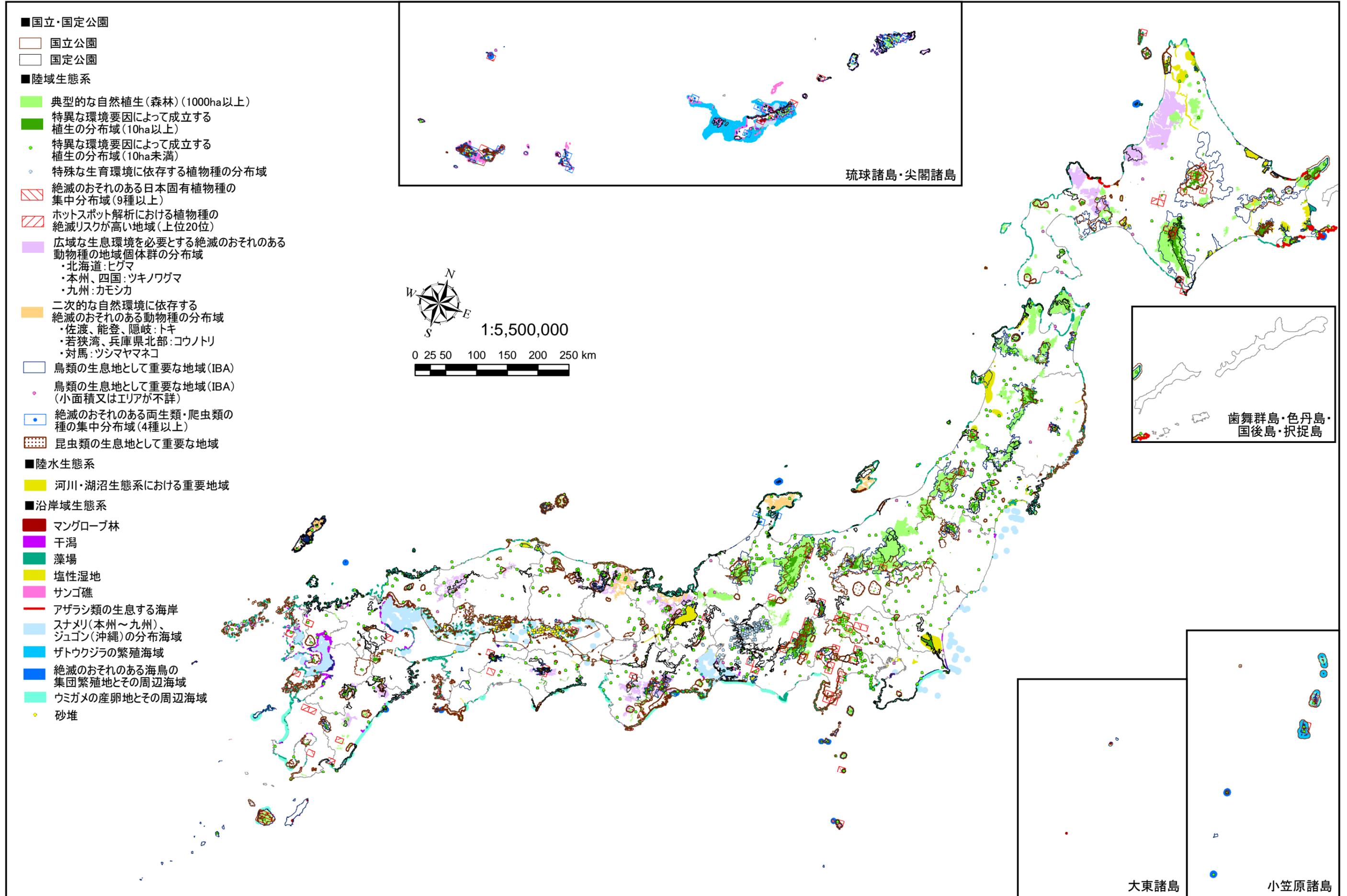
生態系タイプ	対象となる重要地域の項目		データ	
(1)陸域	①植生からみた重要地域	A. 典型的な自然植生(森林)のうち1000ha以上の大規模な分布域	北方針葉樹林 夏緑樹林 照葉樹林 亜熱帯林(海洋島型) 北方針広混交林 夏緑樹林(太平洋側型) 亜熱帯林	生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報(2001、環境省)における重要地域A
		B. 特異な環境要因によって成立する植生の分布域	高山性 山地性 河川 中間・低層湿原 火山荒原 特殊岩地	亜高山性 河畔林 高層湿原 湖沼 岩角・礫地 海岸
	②植物種の生育状況からみた重要地域	A. 絶滅のおそれのある日本固有植物種の集中分布域	日本固有の絶滅のおそれのある種が9種以上分布する2次メッシュ	海老原・加藤(未発表。国立科学博物館提供)
		B. ホットスポット解析における植物種の絶滅リスクが高い地域	ホットスポットC指数 ^{*1} の上位20位(2次メッシュ) ホットスポットD指数 ^{*2} の上位20位(2次メッシュ)	矢原・松田ほか(未発表)
		C. 特殊な生育環境に依存する植物種の分布域	東海丘陵要素植物群の生育する湿地	里山の生態学(2002、広木詔三)、 湿地・湿原生態系保全の考え方(2007、愛知県)
	③動物種の生息状況からみた重要地域	A. 広域な生息環境を必要とする絶滅のおそれのある動物種の地域個体群の分布域	ヒグマ天塩・増毛地域個体群	第5～6回自然環境保全基礎調査等
			ヒグマ石狩西部地域個体群	
			ツキノワグマ下北半島地域個体群	
			ツキノワグマ紀伊半島地域個体群	
			ツキノワグマ中国東部地域個体群	
			ツキノワグマ中国西部地域個体群	
	B. 広域な生息環境を必要とし、二次的な自然環境に依存する絶滅のおそれのある動物種の分布域	ツシマヤマネコ:対馬	第5回自然環境保全基礎調査等	
		コウノトリ:若狭湾、兵庫県北部		
		トキ:佐渡、能登、隠岐		
	C. 鳥類の生息地として重要な地域	重要野鳥生息地(IBA) ^{*3}	IBA白書2007(財団法人日本野鳥の会)	
D. 絶滅のおそれのある両生類・爬虫類の種の集中分布域	絶滅のおそれのある種が4種以上分布する2次メッシュ	第4～5回自然環境保全基礎調査		
E. 昆虫類の生息地として重要な地域	昆虫類の多様性保護のための重要地域 ^{*3}	昆虫類の多様性保護のための重要地域 第1集～第3集(1999,2000,2002、日本昆虫学会自然保護委員会)		
(2)陸水域	①河川生態系における重要地域	豊かな生物多様性を有している又は相当の規模を有している河川	河川	日本の重要湿地500(2002、環境省自然環境局、国際湿地保全連合日本委員会)
	②湖沼生態系における重要地域	豊かな生物多様性を有している又は相当の規模を有している湖沼	湖沼	
(3)沿岸域	①マングローブ林における重要地域	マングローブ林の現状分布域	マングローブ林	第5回自然環境保全基礎調査・海辺調査、現存植生図
	②干潟・塩性湿地における重要地域	A. 生物の生育・生息地として相当の規模を有している干潟(100ha以上)	干潟	第5回自然環境保全基礎調査・海辺調査
		B. 豊かな生物多様性を有している又は相当の規模を有している塩性湿地	塩性湿地	日本の重要湿地500(2002、環境省自然環境局、国際湿地保全連合日本委員会)
	③藻場における重要地域	生物の生育・生息地として相当の規模を有している藻場(100ha以上)	藻場	第5回自然環境保全基礎調査・海辺調査
	④サンゴ礁生態系における重要地域	サンゴ礁生態系の現状分布域	サンゴ礁生態系	
	⑤海棲動物の生息環境からみた重要地域	A. 海棲哺乳類の重要生息海域	アザラシ類(ゼニガタアザラシ・ゴマフアザラシ)の生息する海岸	第5回自然環境保全基礎調査
			スナメリ(本州～九州)の分布海域(目撃地点の周囲5kmの海域)	第5回自然環境保全基礎調査・海棲動物調査
			ジュゴン(沖縄)の分布海域(目撃地点の周囲5kmの海域)	ジュゴンと藻場の広域調査(環境省)
			ザトウクジラの繁殖海域(沖縄島周辺:水深200m以浅の海域、小笠原周辺:陸域から周囲5kmの海域)	事典「くじらの尾ビレ」小笠原・沖縄(2002、財団法人東京都海洋環境保全協会小笠原海洋センター)等
			B. 絶滅のおそれのある海鳥 ^{*4} の集団繁殖地とその周辺海域	海鳥の集団繁殖地(陸域) 海鳥の集団繁殖地の周辺海域(5km)
	C. 絶滅のおそれのあるウミガメの産卵地とその周辺海域	ウミガメの産卵地	自然環境保全基礎調査・浅海域生態系調査	
		ウミガメの産卵地周辺海域(5km)		
⑥生物の生息基盤の観点からみた重要地域	砂堆の現状分布域	砂堆	瀬戸内海における海砂利採取とその環境への影響(1999、環境省)	

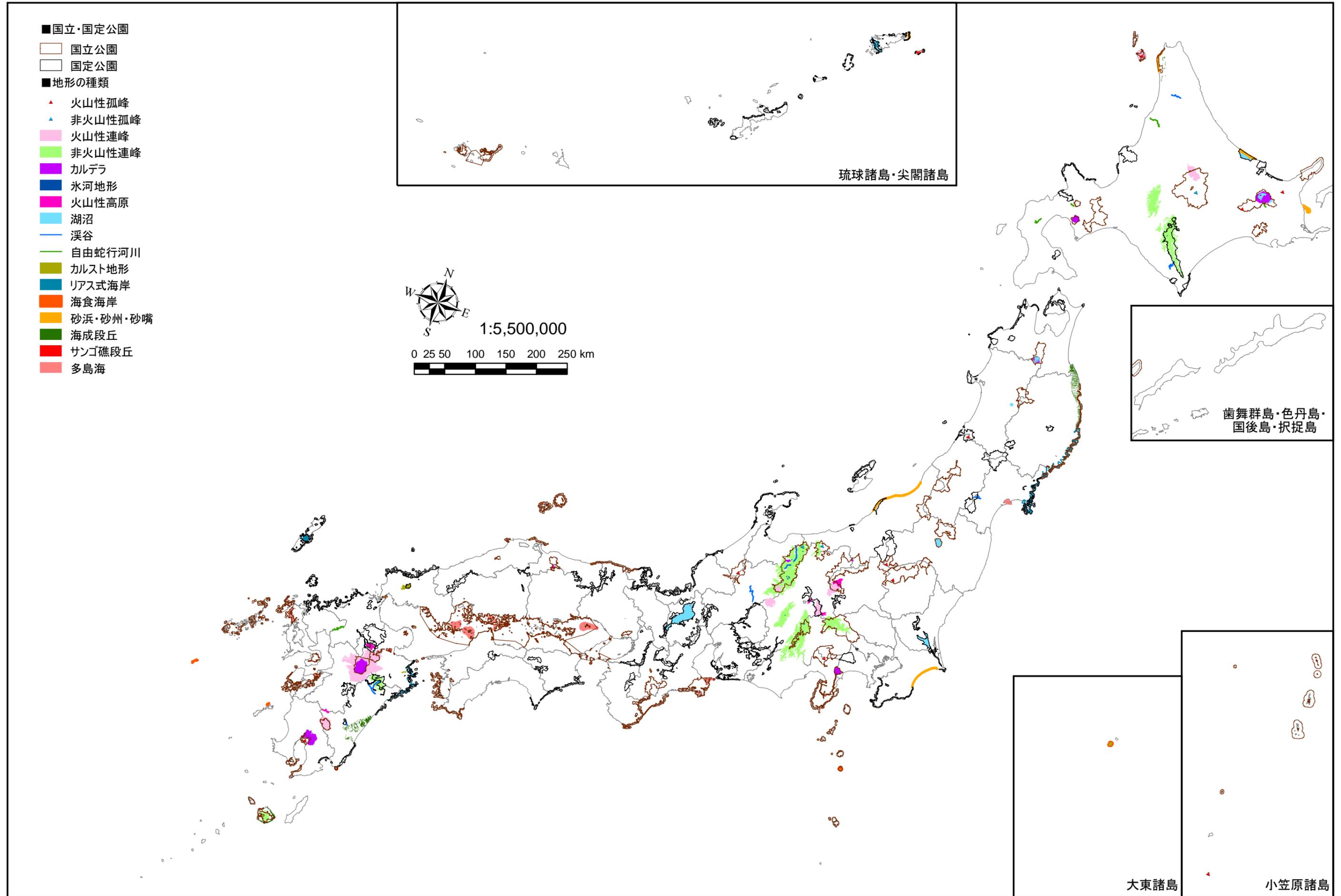
*1 C指数(短期的保全指数):あるメッシュに生育するすべての絶滅危惧種について、将来十年間に減少が起きないように徹底して保全した場合に、全国リスクをどれだけ減らせるかを図る指数。

*2 D指数(長期的保全指数):あるメッシュの絶滅危惧種の自生地を破壊し、そのメッシュから消失させた場合に、全国的な絶滅リスクがどれだけ増えるかを図る指数。【C・D指数の定義:保全と復元の生物学(2002、種生物学会編集)】

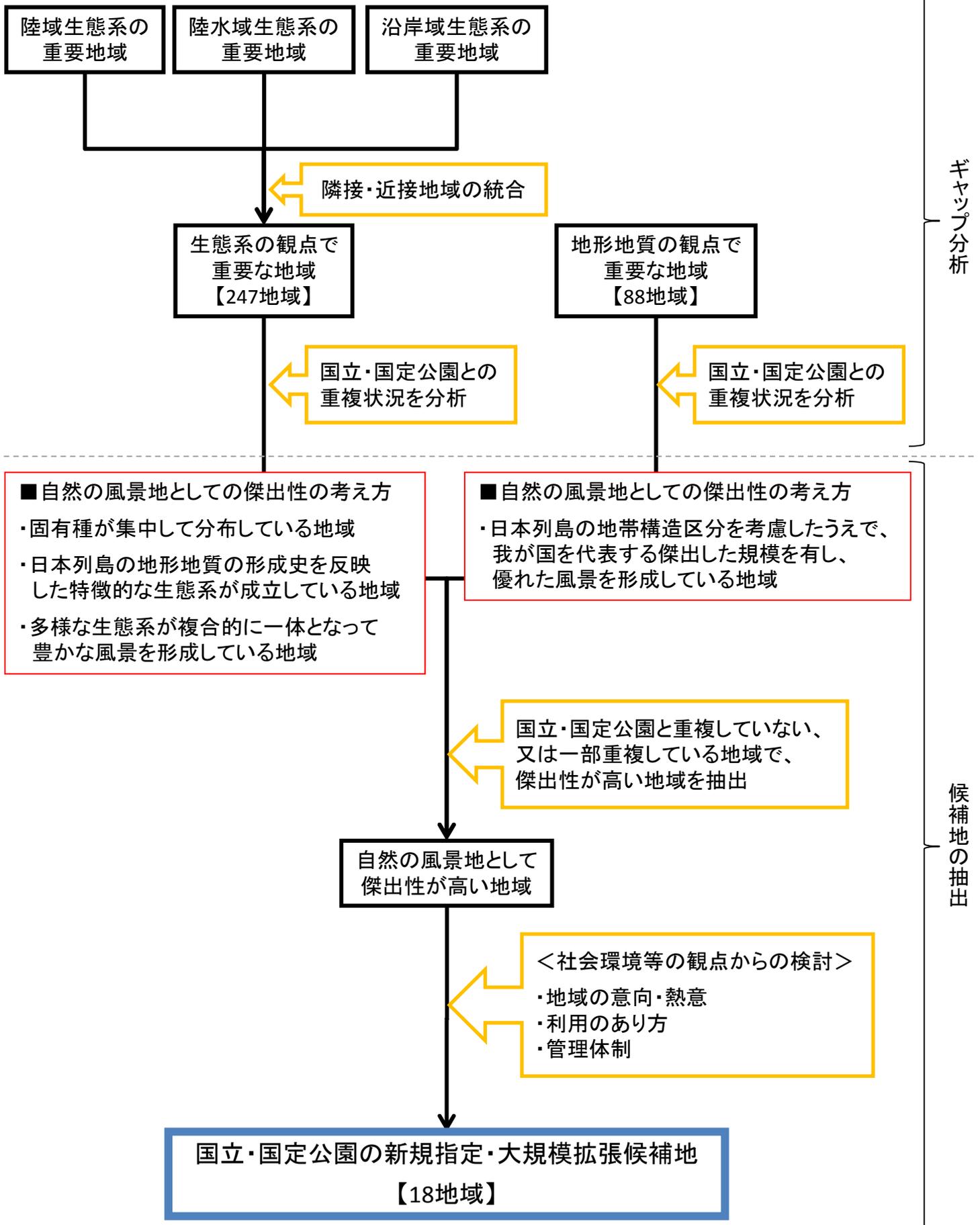
*3 区域はホームページ又は概略図からデータ化したものであり、公式のものではない

*4 チンマウガラス、ウミガラス、ウミスズメ、エトピリカ、コアホドリ、アホドリ、ヒメクロウミツバメ、クロコシジロウミツバメ、オーストンウミツバメ、ケイマフリ、カムリウミスズメ、クロウミツバメ





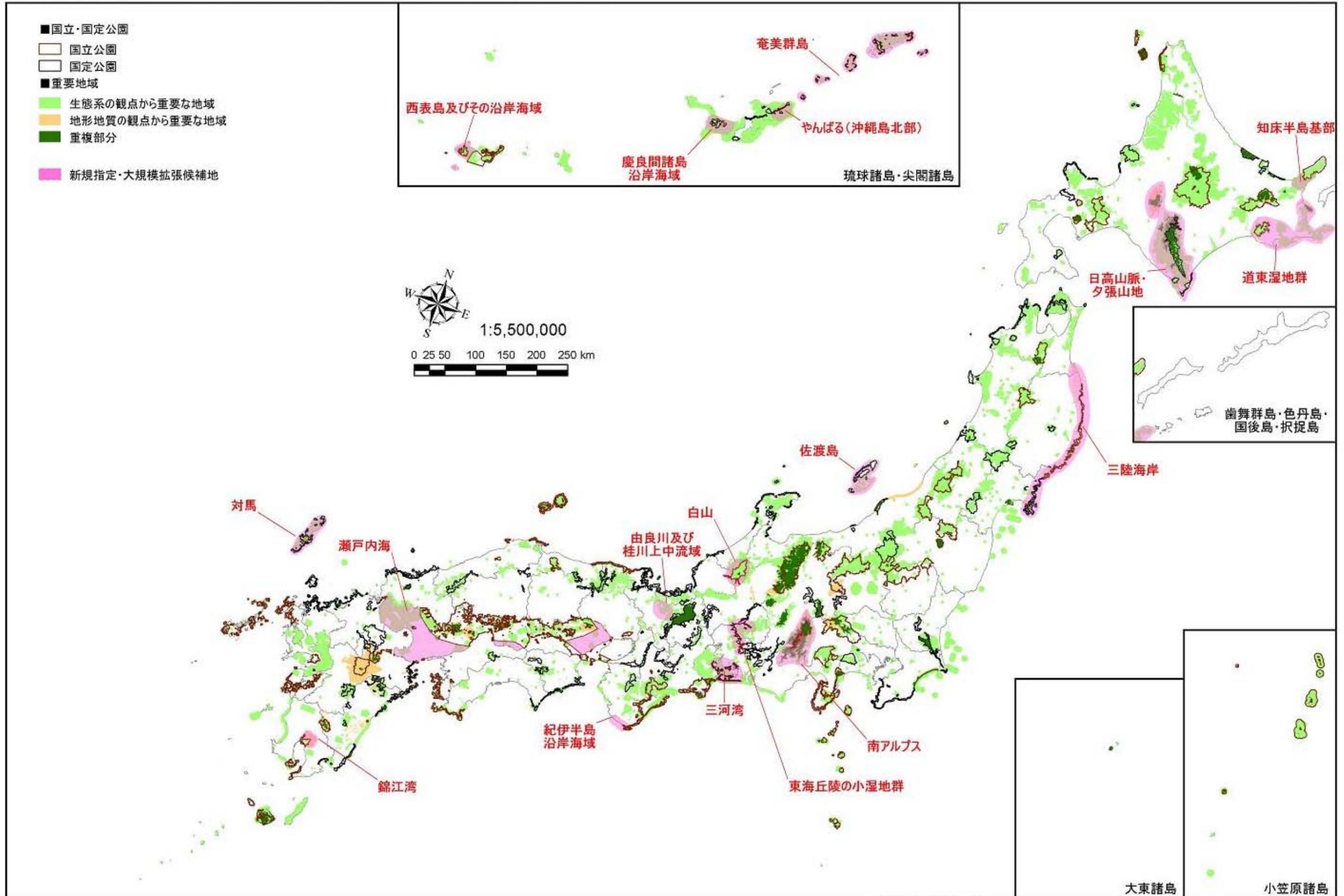
国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定手順



国立・国定公園総点検事業において抽出された新規指定・大規模拡張候補地

候補地	自然の風景地としての評価	今後の方向性
知床半島基部	知床半島の基部は、エゾマツ・トドマツからなる北方針葉樹林をはじめとする自然性が高くまとまりがある森林が現在の国立公園区域外まで分布する。これらの森林地帯には高密度に生息するヒグマやシマフクロウなどの国際希少種の生息地としても重要である。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張
道東湿地群	高層・中間・低層湿原や、塩性湿地、潟湖、重要な藻場・干潟等の多様で、国内有数の規模を誇る湿地が連続性を持って分布する。これらの湿地は、タンチョウ、オオワシといった世界的にも絶滅のおそれのある重要な鳥類や、渡り鳥の重要な渡来地であるとともに、氷河期の遺存種である昆虫類が多数生息する。また、アザラシ類や海鳥の重要な生息地ともなっている。一方、野付半島は国内最大規模の砂嘴である。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国立公園の新規指定・拡張又は国定公園の新規指定
日高山脈・夕張山地	日高山脈は、日本列島の形成過程を反映して形成された雄大な山脈に加えて、氷河時代に形成された地形など、傑出した地形地質が集中して分布する。これらの地形地質や歴史を反映して、植物や高山蝶等に固有種・遺存種が多数みられる。また、高山から山麓部にかけて広がる自然性が高くまとまりがある国内最大規模の森林は、哺乳類や鳥類等の野生生物の重要な生息環境となっている。これらのことから、現在の国立公園区域と一体性のある傑出性の高い地域である。 夕張山地は、日高山脈と同様の地史を有する地形地質を背景とし、植物に多くの固有種・遺存種がみられるほか、自然性が高い森林が分布する。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国立公園の新規指定(現在の国立公園を含む)又は国定公園の拡張
三陸海岸	三陸海岸は、宮古湾を境に南北で地形成因が異なり、変化に富んだ海食地形がみられ、太平洋と一体となった優れた海岸・海域景観を有している。また、海鳥の集団繁殖地が見られるほか、南方系と北方系の植物が混在して分布している。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国立公園の拡張
佐渡島	トキが生息する多様で優れた二次的自然環境を有するとともに、哺乳類や昆虫類をはじめとして固有種等が分布する特徴的な生態系が形成されている。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国定公園の拡張
南アルプス	日本列島の形成過程を反映して形成された雄大な山脈に加えて、氷河期に形成された地形が存在し、傑出した地形地質を有している。これらの地形地質や歴史を反映して、植物や高山蝶等に多くの固有種・遺存種がみられるほか、南方系と北方系の植物が混在することから植物相が多様である。また、自然性が高くまとまりがある国内最大規模の夏緑樹林と、照葉樹林帯から高山帯までの顕著な垂直分布がみられる。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張
東海丘陵の小湿地群	日本列島の形成過程や、特殊な地形地質を背景として、固有種や隔離分布種であるシデコブシやシラタマホシクサといった東海丘陵要素植物が小規模な湿地に生育している。これらの点在して分布する湿地群は傑出性が高い。	国定公園の拡張
三河湾	内湾の沿岸には干潟、藻場が分布し、特に渡り鳥の中継地として重要な干潟がある。また、スナメリの生息海域が広がっている。渥美半島の南岸に広がる砂浜はアカウミガメの重要な産卵地となっている。これらのことから、沿岸において多様で連続性を持つ生態系を有しており、傑出性の高い地域である。	国定公園の拡張

候補地	自然の風景地としての評価	今後の方向性
白山	自然性の高いまとまりのある森林が白山の山頂部から山麓部にかけて分布し、哺乳類、鳥類、昆虫類等の野生動物の生息地として重要であるほか、白山を分布の南限・西限とする植物種も多い。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張
紀伊半島沿岸海域	サンゴ礁生態系、干潟、藻場が分布し、沿岸において多様で連続性を持つ生態系を有している。また、日本列島の形成過程を示す特徴的な地質が点在している。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張
ゆらがわ 由良川 及び桂川 上中流域	由良川の源流域には自然性が高くまとまりがある、原生的なスギ林が分布するとともに、南方系と北方系の植物や昆虫類が生育・生息している。また、由良川の上流域は溪流性の希少魚類の種類が豊富である。由良川及び桂川の上中流域を中心として多様で優れた二次的自然環境を有し、文化的景観を有している。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国定公園の新規指定
瀬戸内海	干潟、藻場が多く分布し、特に渡り鳥の中継地として重要な干潟が分布する。また、スナメリの生息海域が広がっている。これらのことから、沿岸において多様で連続性を持つ生態系を有しており、傑出性の高い地域である。	国立公園の拡張
対馬	浅茅湾は傑出性の高い規模を有するリアス式海岸である。また、ツシマヤマネコが生息する多様で優れた二次的自然環境を有するとともに、日本列島の形成過程を反映して、固有種、大陸との共通種及び日本列島との共通種が混在した特徴的な生態系が形成されている。これらのことから、傑出性の高い地域である。	国定公園の拡張
きんこうわん 錦江湾	錦江湾とその周辺にはカルデラを中心とする火山地形等が分布し、我が国随一の傑出性の高い規模を有する海域カルデラ景観を有している。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張
奄美群島	日本列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に、アマミノクロウサギをはじめとする多くの固有種が集中して分布する特徴的な生態系が形成されている。また、国内最大規模の亜熱帯林、自然性の高い河川、マングローブ林、サンゴ礁等が分布し、陸域から海域にかけて多様で連続性をもつ生態系を有している。これらのことから、我が国を代表する傑出した地域である。	国立公園の新規指定(現在の国定公園を含む)
やんばる (沖縄島北部)	日本列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に、ヤンバルクイナやノグチゲラをはじめとする多くの固有種や世界的にも絶滅のおそれのある重要な野生生物が集中して分布する特徴的な生態系が形成されている。また、自然性が高くまとまりのある亜熱帯林、自然性の高い河川、マングローブ林、サンゴ礁等が分布し、陸域から海域にかけて多様で連続性をもつ生態系を有している。これらのことから、我が国を代表する傑出した地域である。	国立公園の新規指定(現在の国定公園を含む)
けらま 諸島沿岸 海域	慶良間諸島沿岸海域は透明度の高い優れた海域景観を有するとともに、サンゴ礁には多様なサンゴが高密度に生息し、沖縄島周辺海域への幼生の供給源として重要である。また、ザトウクジラの重要な繁殖海域でもある。これらのことから、沿岸から海域にかけて多様な生態系を有しており、我が国を代表する傑出した地域である。	国立公園の新規指定(現在の国定公園を含む)
西表島 及びその 沿岸海域	日本列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に、多くの固有種が集中して分布する特徴的な生態系が形成されている。また、西表島の大部分には原生的な亜熱帯林が広がり、浦内川をはじめとした種の多様性が高く自然性が高い河川、仲間川下流域の国内最大規模のマングローブ林、サンゴ礁等が分布し、陸域から海域まで多様で連続性を持つ生態系を有している。これらのことから、現在の国立公園区域と同等の資質を有する一体性のある地域である。	国立公園の拡張



*候補地名は仮称である。
*図示してある候補地の範囲は概念的なものであり、具体的な公園区域と一致するものではない。